

令和7年度第1回 高山市子ども未来推進委員会 会議録

日 時	令和7年8月22日（金）9時30分～11時00分
場 所	市役所地下 大会議室
出席者	委員 出席18名、欠席3名、市長、事務局9名
開会	進行：子ども家庭センター長
あいさつ	高山市長
委員委嘱	高山市長より委員へ委嘱状を交付
委員長・副委員長選出	立候補・推薦等がなく、事務局提案により、委員長に中井光博さん、副委員長に野添みわこさんを選出 委員長、副委員長から挨拶
議題	進行：委員長
事務局説明	①高山市子ども未来計画（子ども用）について ②高山市子ども若者オンライン意見箱の設置について 説明：子ども政策課長より 資料により説明
[発言者] 副委員長	[意見・要旨] 小中学校への出前講座により、子ども未来計画などを伝えることについては、各学校からの手上げ方式なのか、市側から依頼する方式なのか。
子ども政策課長	昨年度は、校長会で呼びかけて手の上がった2校で実施、今年度は小学校や高等学校から市が依頼を受けて機会を設けている。 まずは市から呼びかけ、広く展開していきたい。
副委員長	新聞等を読まない子育て家庭もあり、デジタルによる情報が溢れるなかで埋没する恐れもあるため、積極的かつ効果的な情報発信をお願いしたい。
委員	計画の子ども版は、資料が分かりやすく、ルビもあり、子ども達も読みやすいと感じた。 オンライン意見箱について、意見を言いたい相手に両親や学校職員などを選べるようにしているが、意見欄にこどもの心が心配されるよう

<p>こども政策課長</p>	<p>な内容が入ってくる可能性がある。そういった意見が届いた場合の保護者や学校への連絡はどのように考えているのか。</p> <p>いじめを受けているなど具体的な悩みや相談については、はじめに専用の相談窓口を案内することにより、そちらの利用（エスケープ）を促すこととしている。それでも心配される内容が入ってきた場合は、こどもの氏名などから学校へ事実確認するなど、心配の解消に向けた対応が必要になる場合も想定する。</p> <p>一方で、こどもが意見箱に書いた内容を親や学校には知られたくないといった場合も考えられるため、十分配慮したうえで、学校等と連携して対応していきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>出した意見がどう扱われたのか分かりにくいと思うため、言いつばなしで終わらないよう個別に連絡があるなど、市からの反応があると良いと感じる。</p> <p>オンライン意見箱の名称「言え〜る」は、意見を言えると応援するエールの造語とのことだが、応援していると分かりづらいため、「え〜る」に英語を添えてはどうか。</p> <p>年代の選択肢が、小学校1〜3年、4〜6年などとまとめてあるが、こども若者を対象にした意見箱であるため、高校生までは学年毎に区切った方が良いと感じた。</p>
<p>こども政策課長</p>	<p>こどもが出した意見を覚えていられるか、自分への反応と分かるかといった難しさもあるとは想定している。こども若者の意見を聞くことが、これまでしっかりとできていなかった所からのスタートであり、どれだけでも良い仕組みとしていきたい。</p> <p>名称や年代の選択肢に関しては、参考とさせてもらう。</p>
<p>委員</p>	<p>東山中学校では「地域の未来を語る会」を10年以上続けており、観光や農業、林業などの分野でこども達が地域の人々と話し合ってきた。そこで得た成功体験の一例として、田中市長が担当部長だった時代に、こども達が提言した市内のフリーWi-Fiエリアの拡大が実現した。個人の意見も重要だが、学校での学びを通してまとめられた提言の重要性を感じているため、より多くの提言が実際の取組みに反映されることを希望する。</p>
<p>こども未来部長</p>	<p>学校とこども達、地域の方々が一緒になって様々に取り組んでいることは承知しており、そういった練り上げられた意見が施策に反映できるよう、学校や教育委員会とも連携して取り組んでいきたい。</p>

委員	若い世代のまちづくりに参加する意識の低さが気になっている。小中高生は集団生活しているので、意見聴取しやすいと感じるが、若い人の働く職場をどうターゲットにしていくか。若い人が意見を言ってもいい、市も聴いてくれるという風土づくり、意識改革が重要と考える。
こども政策課長	若者は大人とも重なりのある範囲であり、これまでも意見を出せる環境があったと捉えると、これまでにはそういった受け皿が十分なかった小中高生にまずは注力しつつ、先々には働く若者、職場といった対象へと広げていきたい。
委員	若者世代へのアプローチの一つとして、雇用促進協議会主催の「YAONA」との連携が考えられる。
委員	市内の10代後半～30代の若者の中には、外国人の労働者も多く、日本全体として長く住み、ともに地域を支えていく人材となるよう日本全体が動いている。そんな外国の若者の意見も拾い上げられるように取組んでもらいたい。
こども政策課長	できるだけやさしい日本語を使うことが行政内でも求められている。互いの理解と共生が重要だと考えるため、様々な属性の人が利用できるものにしていきたい。
委員	高校生が意見を出す機会は少ないため、オンライン意見箱を活用して、特に遊び場に困っているなどの意見を出していきたい。意見反映などの成功体験を得ることで、大人になっても市の政策に関わっていこうといった意識が高まると感じており、良い取組みと感じる。
委員	こども版の計画については、小学生なども興味を持てるよう分かりやすく、色が工夫してあり、イラストもあるため良いと思う。 オンライン意見箱については、目的の成功体験を得る部分に共感しており、自身も習い事で賞を取った時など、嬉しくて意欲が増した経験があるため、自分の意見がまちづくりに取り入れられた成功体験が、よりまちを良くしたいといった気持ちに繋がるので、良い取組みだと感じている。 中学1年生と3年生では、知識や考えることも異なるので、年齢の設問は学年毎に分けた方が良いという委員の意見に賛成する。
副委員長	学校の総合学習の時間に出前授業を組み込んでもらい、学習用タブレットで意見を出すといった手法もあるのではないかと。 20歳の集いの機会に、意見を出してもらっても良いのではないかと。

教育委員会事務局長	教育委員会としても、こども未来部と連携しながら詰めているところで、委員の提案の方法も含めて検討させてもらう。
市民活動部長	<p>現在は、市への提言コンテストや市内就職先の PR などを行い、若い世代に関心をもってもらえるよう取組んでいる。地元へ戻る動機付けにも繋がるため、連携して取組んでいきたい。</p> <p>先ほど意見にあったように、今年の20歳の集いの参加者約800人の内、外国の方が30人程おり、事業者へも参加いただけるような呼びかけをしていきたい。</p>
委員	こども食堂を開催しており、意識の高いこども達、悩みを抱えるこども達が利用している。高山市に意見を伝える機会を設けることで、より良い意見が寄せられると感じるため、こども食堂に職員が来て、案内をしてもらえるとありがたい。
こども家庭センター長	日頃からこども達の居場所、食事の提供などの活動に感謝している。こども達の集まる場に行き、色々と意見を聴かせてもらうことは非常に大事と考えているため、是非伺いたい。
委員	意見を言える場を作ったので自由にどうぞ、といった姿勢ではなかなか普及しない。その後の機会にも繋げるためにも、小中高校生が実際に使ってみる機会を設けることが重要と考える。
委員	<p>こども版のP3のアンケート結果は、小5と中2で違いもあると思うため、年代で分けたが良い。</p> <p>意見を言うには、現状を知ることが重要である。高山市がどのような取組みをしているか知らないと意見も出せないため、政治、行政の取組みの情報発信を積極的に進めてもらいたい。</p>
市長	<p>一般向けの意見箱は既に設置されており、匿名の方や返事が欲しい方など様々であるが、市長も全て目を通して見ている。今回の意見箱はそのこども・若者版であり、まずは意見を出しやすい環境づくりが重要と思うので、今回の意見も参考に進めさせてもらう。</p> <p>先ほど意見があったように、小学校でも、地域と協力した提言などに取組んでいるため、そういった場で言え～るを活用しても良い。</p> <p>計画のこども用は、6Pを地図と思えるように工夫してほしい。</p> <p>計画の概要版は、黄色が見にくいので修正するほか、日常的には使わない言葉が多用されているので表現に配慮してほしい。</p>

	<p>③美鳩幼稚園の「新制度」移行について</p> <p>説明：こども政策課長より 資料により説明</p>
委員	利用者と法人それぞれの立場で、新制度へ移行すると何が変わるのか。
こども政策課長	利用者側からは、変化がないのが実態であり、法人側からは安定的な経営となる方向で、財政的な仕組みが変化することとなる。
委員	他の保育園などへの影響はないのか。 議案とは関係ないが、各保育園の保護者会の代表者が参加する協議会を開催しているが、支所地域の園などはなかなか参加が難しい状況である。
こども政策課長	今回の制度移行による保育園への影響はない。 紹介いただいた保護者会の代表者による会の取組みは、大変良いことだと思っているが、支所地域の園については、距離が遠く参加しにくい事情もあるようである。多くの園から参加いただけるよう市も一緒に考えていきたい。
	[質疑終了]
その他	進行：委員長
委員	この委員会のように、様々な立場の方での意見交換や連携が大切だと感じている。またこどもの意見が聞いてもらえる場所は、今までは教育機関が主であり、ありそうでなかったため、今回の高校生委員の参加やオンライン意見箱などの取組みがさらに広がると良いと感じた。
委員	こどもが安心できる、サードプレイス（学校と家庭以外の居場所）を持っていないこどもが50%ということに驚いた。こども計画こども版を配付する際には、意見箱についても説明いただきたい。夏休みの宿題に意見を出すことを加えることも良いのでは。
委員	高山青年会議所での取組みや、高山エキスポについての紹介
委員	商工会議所事業のUターンシップ、会社見学バスツアーなどの紹介
閉会あいさつ	こども未来部長 活発な意見交換に感謝、次回は令和8年2月頃の開催を予定